

(様式1)

大 学 名	岐 阜 大 学	学 問 分 野	学際、複合、新領域(環境)
専 攻 等 名	連合獣医学研究科獣医学専攻		
拠点のプログラム名称	野生動物の生態と病態からみた環境評価		
拠点リーダー氏名	平 井 克 哉	所属部局・職	連合獣医学研究科長(獣医学専攻)・教授
プログラムの概要	本研究拠点形成プログラムでは、野生動物の生態と病態から環境評価を行う。とくに、野生動物医学という学問分野を中心に据え、生態学や環境科学など他の研究分野との連携のもと学際的に研究教育を推進する。		
拠点形成の目的・必要性	21世紀は環境の時代と言われ、野生動物を含む自然環境の重要性が益々認識されてきている。すなわち、健康で多様性に富む自然生態系の持続的保全性は、人類生存に必須であるとの認識が定着してきた。この自然生態系の中で、野生動物が果たす役割は、学術、教育、資源などの面から極めて重要である。このような自然環境を健康に維持するためには、科学的に様々な角度から環境をモニターする必要がある。その指標の一つとして、野生動物の生態と病態からの診断的アプローチがある。この領域(野生動物医学)は、新しい学問分野で、今、その中核的な研究教育の拠点形成が求められている。		
研究拠点形成実施計画	<p>本構想では、野生動物医学の研究教育拠点として、病態研究分野と生理・生態研究分野に分け、以下の研究を行いながら人材(大学院生)を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態研究分野 <ol style="list-style-type: none"> 1) 野生動物の病態機構の解明 2) 野生動物の病理学的研究 3) 人獣共通感染症の病態発生機序の解明 4) 野生動物に蓄積する内分泌攪乱化学物質を指標とした環境評価 2. 生理・生態研究分野 <ol style="list-style-type: none"> 1) 野生動物の繁殖生理に関する研究 2) 希少野生動物の人工繁殖技術および生殖医療法の確立 3) 希少野生動物の遺伝的変異に関する研究 4) 野生動物の個体群動態からみた持続可能な環境管理 		
教育実施計画	本研究教育拠点形成に伴う教育は、主に大学院教育によって行われる。すなわち、大学院において野生動物医学を教授し、国内はもとより国際社会で活躍できる人材を社会に提供し、この分野の発展に寄与する。具体的には、野生動物の致死性感染症の疫学と発生予防、人獣共通感染症の感染環とそのメカニズム、野生動物個体群の動態と保護管理、希少動物の遺伝子保全、傷病野生動物の治療や野生復帰などに関する研究テーマを大学院生に与え、国際共同研究が行える程のレベルにまで研究教育を活性化させる。その他、一般市民への公開講座や社会人向けの専門家養成ワークショップなども開催する。		

野生動物の生態と病態からみた環境評価

病態機構分野

- ・環境汚染物質の病態学的解析
- ・生体異常からの環境汚染状況の予察
- ・致死的伝染病の研究
- ・共通感染症の研究

予防治療分野

- ・傷病動物の治療、制御
- ・野外復帰

希少動物繁殖分野

- ・体外受精技術の確立
- ・人工繁殖技術の確立
- ・繁殖生理の解明
- ・卵子・胚操作
胚移植技術

遺伝資源保全分野

- ・DNA多形性の解析
- ・配偶子の凍結保存
技術の確立

生態環境分野

- ・個体群動態と保護
管理に関する研究
- ・適応機構、採食・
繁殖生態、社会構造の研究

野生動物の保全

人の健康

動物の健康

人間の福祉

種の保存

国際協力

環境保護

獣医学

薬学

生態学

環境科学

遺伝子工学

医学